

2017年度 第20回 関西まちづくり賞 表彰式を開催

日本都市計画学会関西支部では、1998年度から「関西まちづくり賞」を設け、まちづくり、都市計画の進歩・発展に著しい貢献をした優れた成果又は実績を表彰しています。2017年度は、3つのプロジェクトを表彰しました。

表彰式は、2018年4月7日（土）、関西支部総会に引き続いて開催し、表彰状及び楯の授与の後、受賞者によるプレゼンテーションと、パネルディスカッションを行いました。



受賞のみなさんと支部長、関西まちづくり賞委員会委員

<第20回 関西まちづくり賞 表彰プロジェクトの紹介>

多様な主体による富田林市寺内町の地域資源を次代に引き継ぐ取組み（大阪府富田林市）

受賞者：有限責任事業組合富田林町家利活用促進機構（略称：LLPまちかつ）、富田林寺内町をまもり・そだてる会、じないまちボランティア・ガイドの会、富田林じないまち農と食と観光まちづくり推進協議会、富田林市、大阪府

大阪府唯一の重要伝統的建造物群保存地区である富田林市寺内町とその周辺地区においては、伝建地区の指定以前より、地域における自主的な町並み保存活動を行う「富田林寺内町をまもる会」が結成され、市においても旧杉山家住宅を取得するなど、町並み保存活動が官民連携して行われてきました。1997（平成9）年に重要伝統的建造物群保存地区に剪定されて以降、駅前では計画されていた市街地再開発事業を取りやめ、寺内町を核とした都市の活性化・賑わいづくりを



ご受賞おめでとうございます



空きスペースを活用した店舗

目標とする都市再生整備計画に転換し、駅前広場の整備、駅と寺内町をつなぐ道路の整備・美化等の事業が行われています。

近年では、町並み保存活動に加え、賑わい創出活動も取り組まれております。じないまち四季物語実行委員会による地域イベント「じないまち四季物語」、LLPまちかつによる空き家・空きスペースの所有者と事業主とのマッチング（これまでに約40軒）、富田林じないまち農と食と観光まちづくり推進協議会による地域資源と暮らし文化を融合した交流プログラム「楽食楽まちじないまち」など、まちの資源と文化を全面に出した取組みが、多様な主体により進められてきています。

これらの取組みはそれぞれの主体が文字通り主体的に実施しており、バラエティに富んでいることも評価できるポイントであると考えています。

大学連携等によるゆっくりと成長する中心市街地活性化事業の継続的实施（兵庫県丹波市）

受賞者：株式会社まちづくり柏原



ご受賞おめでとうございます



TMOが指定管理者を務めるたんば黎明館

かつて城下町として栄えた兵庫県丹波市柏原では、中心市街地の衰退を原因に、2000（平成

12) 年に地元商店主ら多数の地域住民と旧柏原町が出資して、旧柏原町の中心市街地活性化計画を推進する TMO として、株式会社まちづくり柏原を設立されました。この時期に設立された国内の多くの TMO が、その後、経営難に陥って解散したのに対し、まちづくり柏原は、イタリア料理店の直営等により経営基盤を整え、地域の空き家を借り上げ、改修しテナント誘致を行うテナントミックス事業、大学と連携した地域拠点整備、電柱と街路灯の民地へのセットバックとセットで実施した街路の美装化、城下町の街並みを整備する街なみ環境整備事業等の多様な事業を、社会環境の変化に合わせて効果的かつ弾力的に継続実施しています。その結果、城下町らしい町並みや質の高い商い、賑わい創出活動が生まれ、まちの交流人口を増加させることでかつての賑わいが戻りつつあります。小規模都市における地域商業活性化を軸としたまちづくりのモデルであると言えます。

藤井寺駅周辺の持続可能な賑わい共創活動（大阪府藤井寺市）

受賞者：藤井寺駅周辺まちづくり協議会、藤井寺市都市整備部まち創造課

大阪府藤井寺市は人口約 65,000 人、面積約 9k m²のコンパクトな市で、街の賑わいが失われつつあることに危機感を持った商店街の住民などで構成する「まちづくり協議会」が主体となって、行政や多様な団体と協働でまちの再生を進めています。協議会には2つの部会（「活性化イベント部会」、「町並み整備部会」）があり、ソフトとハードの融合によるまちづくりを体現しています。



ご受賞おめでとうございます



盛況なハロウィンイベント「デラハロ」

駅前広場「デラ・パーク（イベント舞台）」の設置や歩道の拡張といった「ぼぼろード（駅北線）」のリニューアル事業は、協議会の「まちづくり提案書」を基に市が駅前歩道再整備の設計を見直した官民協働の成果です。

また、市民による歴史性のある並木の再生や参加者が1万人を超えるハロウィンイベント「デラハロ」、手作り市の開催など、連鎖的に多様な主体による種々の連携や協働による活動が生み出されています。

協議会の発足から約7年が経過し、繰り広げられる活動は、協働の輪や活動内容に今もなお広がりが見られ、今後の更なる発展が期待されます。



表彰式後の、受賞者と関西まちづくり賞委員会委員によるミニ・シンポジウム